

ボリビア人の日本理解および日本の ODA に関する意識調査 —サンアンドレス大学と PDM 高等技術専門学校におけるアンケート調査—

サンアンドレス・ボリビア国立大学科学技術学部客員教授
綾部 誠

1 はじめに

ボリビア共和国（以下、ボリビアと表記）は、南米大陸のほぼ中心に位置する内陸国で、「南米の最貧国」と称されている。ボリビアは国土が日本の約3倍程度あるものの、人口は約962万人（2006年）と少なく、人口密度の低い国である。経済的な側面では、国民1人あたりのGNI（2005年）が1,010ドルとなっており、1日1ドル以下で生活をする絶対的貧困の比率（2003年）は30.9%、2ドル以下で生活をする人々の比率は73.7%と、南米の中でも貧困の比率は際立って高い低位中所得国である¹。人間開発指数（HDI）は世界で115位（2004年）であり²、南米諸国のなかでは最下位に位置している。主な産業は亜鉛、錫、金などの鉱業と、大豆、木材、砂糖などの農業となっている。

このようにボリビアは南米のなかでも最も開発の遅れた国であることから、これまでに先進国や世界銀行をはじめとした国際機関は、ボリビアに対して多額の経済協力を実施してきたという経緯がある。2004年のボリビアに対する先進国や国際機関によるODAの供与総額は約7億6,600億ドルとなっており、国民1人あたりの政府開発援助の受取額は85ドル、対GNP比では8.7%にもなっている³。国民1人あたりの受取額と対GDP比はともに南米諸国のなかでは最大となっている。

日本政府はボリビアに対する経済協力として1960年から研修員受入を、1961年から専門家派遣をそれぞれ開始し、両国政府間では1977年に青年海外協力隊派遣に関する取極めが、翌年には技術協力協定が締結されることで、ボリビアに対して積極的にODAを実施してきた。日本政府がこれまで長期にわたってボリビアに経済協力を実施してきた背景には、ボリビアに約14,000人も存在するといわれる戦後移住を中心とした日系人を支援することに加え⁵、人道的観点からの貧困撲滅、日本の国連常任理事国に関するボリビア政府の支援、資源外交上の目的があるとされる⁶。そのために社会開発、生産力向上、ガバナンス強化などを重点分野として掲げ、経済協力を継続している⁷。

日本がボリビアに対して行ってきたODAは、2006年度までの累計で有償資金協力が約470億円、無償資金協力が約815億円、技術協力が約599億円の計1,884億円となっている⁸。従来、日本はボリビアに対する経済援助の規模でアメリカに次いでドイツ、スペイン、

オランダらと並んで大きな割合を占める時期が長く続いてきたが、近年は日本の ODA が縮小する傾向にあることから、そのシェアは低下傾向にある⁹。しかし日本の ODA の南米地域におけるボリビア支援の比率は高く、2005 年度はブラジルに次いで第 2 位(約 19 億円)、2006 年度は第 1 位(約 17 億円)となっている¹⁰。このことから日本にとってボリビアは、南米地域における主要援助対象国であり続けているといっても過言ではない。

他方で ODA 以外の資金の流れに目を転じると、日本企業はボリビアに僅か 2 社しか進出しておらず、直接投資は 1951 年から 2004 年までに僅か 49 億円程度と、ODA と比較するとその規模は極端に小さい¹¹。この点からもボリビアに対する日本の ODA は、国の経済開発や社会開発のために大きな役割を担っているといえる。

以上のように日本にとってボリビアは長年南米の中でも主要な援助対象国であり、日本政府としても実施した ODA を広くボリビア国民の間に周知し、両国の友好関係をより一層強固なものにすることが模索されている。その 1 つとして在ボリビア日本大使館、在ボリビア JICA 事務所、ペルーに事務所を持つ JBIC ならびに JETRO をメンバーとして結成された現地 ODA タスクフォースでは、「ボリビア・ビジョン・サイト」が掲げられ、このなかでボリビアにおける積極的な ODA 広報活動を展開することが謳われている¹²。このように現地における ODA 広報活動の重要性は援助関係者の間でも認識されていると思われるが、実際に日本の ODA がボリビア国民からどのような評価を受けているのかということについて意識調査したものは、いまのところ見当たらない。またボリビア人はもともと親日的な国民が多いとされ、ODA が親日感情を高めることに寄与していると強調するものも存在しているが^{13 14}、実際の日本(人)に対する感情や認識について数量的に調査・分析したものが存在していないという問題点もある。

そこで本稿ではこれらの問題意識を基点として、ボリビア人が日本(人)に抱く感情やイメージとはどのようなものであるのか、さらにこれまでに実施されてきた日本の ODA がボリビア人の間でどのように理解・評価されているのかということ、アンケートを用いて数量的に分析することを目的とした。その際、日本に対するイメージをより具体的に明らかにするため、文化に関連する項目もアンケートで取り上げることにした。

本研究によって、ボリビア人の抱く日本(人)に対するイメージ像と対日感情が客観的に示され、さらに日本の ODA に対する理解と評価が数量的に把握されることで、今後のボリビアにおける ODA の広報手段や潜在ニーズに則した文化交流事業の検討、さらには ODA の内容を議論する際の基礎資料としても役立つことであろう。

2 調査方法

アンケートの対象は、ボリビアの首都ラパス市にあるサンアンドレス・ボリビア国立大学(UMSA : Universidad Mayor de San Andrés)の学生と教職員、ペドロ・ドミンゴ・ムリージョ高等技術専門学校(EIPDM : Escuela Industrial de Pedro Domingo Murillo)

の学生と教員、および筆者がUMSAで担当している講義に一般市民として参加した者（政府関係者、学術会議委員、他の私立大学の教職員や学生など）を対象に、2008年2月18日と19日に実施した。

アンケート項目は大きく3分類あり、基本属性に関するものが4項目、日本（人）に対するイメージと好感度に関するものが7項目、日本のODAに対する認知度に関するものが7項目の計18項目である。アンケートは無記名方式とし、UMSAの科学技術学部(Av.Arce)の校舎を利用して行った。

アンケートは60名に対して直接配布し、翌日に回収を行った。回答があったのは計45名であった（回収率は75%）。

回答者はそれぞれ、UMSAの教職員が15名と学生が7名、EIPDMの教職員が13名と学生が1名、一般市民が9名であった（男性が37名、女性が7名、不明が2名）。

なお本調査にあたっては、筆者の担当している技術移転論に関する講義を受講してからは日本に対するイメージにバイアスを生じさせる可能性があるため、講義を開始する前にアンケートを直接配布し、回収するという方法をとった。アンケート項目の詳細については【付録】に掲載した。

3 結果

最初に、日本に対してどのようなイメージを持っているかということについて、質問を行った(Q2-1)。その結果、日本を「技術先進国」としてイメージする者は98%と、他の項目と比較すると圧倒的に高く、次いで「経済先進国」(56%)、「文化先進国」(38%)、「援助先進国」(24%)、「環境先進国」(24%)と続いている(図1参照)。その他の少数の回答(記述式)では、「浪費大国」(4.4%)、「汚染大国」(2.2%)というものが存在した。

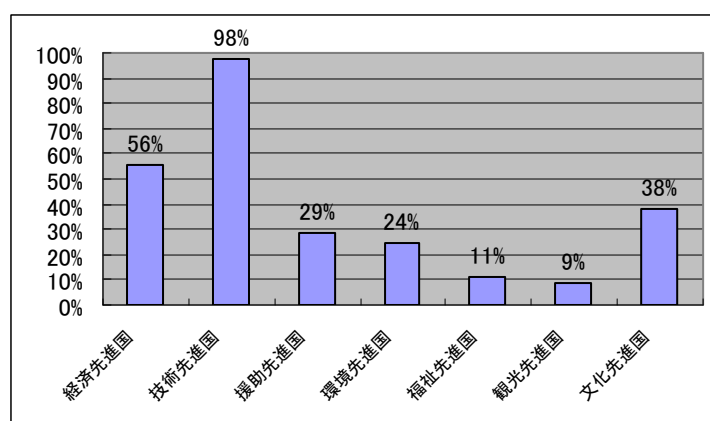


図1 日本に対するイメージ

一方で、日本人に対するイメージを尋ねたところ(Q2-5)、「几帳面」(69%)、「勤勉家」(67%)、「努力家」(64%)というイメージを持つ者がそれぞれ6割を超え、これに次いで

「真面目」(38%)、「献身家」(33%)と続いている(図2参照)。その他の少数の回答(記述式)では、「完璧主義」(4.4%)、「保守主義」(2.2%)、「秩序主義」(2.2%)というものが存在した。

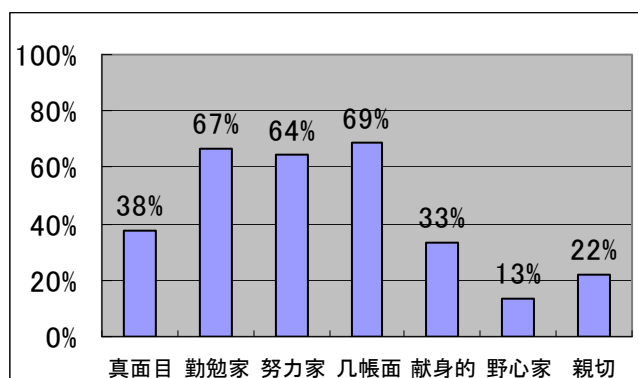


図2 日本人に対するイメージ

日本に対して好感を持っているかという質問(Q2-6)では、「とても好感を持っている」が51%、「ある程度好感を持っている」が47%、「あまり好感をもっていない」が2%と、「とても好感を持っている」「ある程度好感をもっている」の両者を合わせると98%が日本に対して好感を持っていることが判明した。また今後、日本という国がボリビアにとって重要なパートナー国になりうるかと尋ねたところ(Q2-7)、「とてもそう思う」が22%、「ある程度そう思う」が67%、「あまり思わない」が9%、「全く思わない」が2%となり、「とてもそう思う」「ある程度そう思う」を合わせた値は89%になっている。

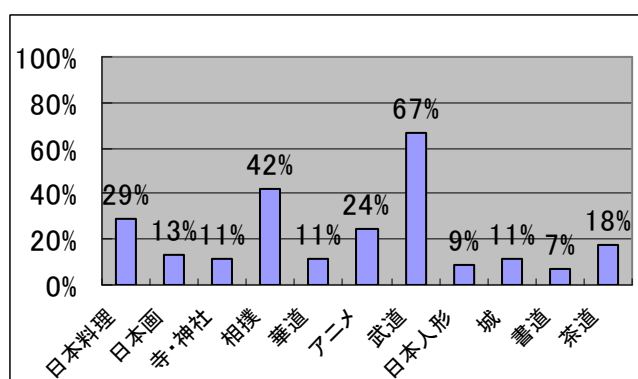


図3 日本の文化で知っているもの

文化的側面から、日本の文化についてもっと知りたいかと尋ねたところ(Q2-2)、「とてもそう思う」が51%、「ある程度そう思う」が44%、「あまりそう思わない」が4%となっており、「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の両者を合わせると95%が日本の文化に対してさらに知りたいという関心を持っていることが分かった。

日本の文化について既に知っているものを聞いたところ、柔道、剣道、空手などの「武道」が 67%、「相撲」が 42%、「日本料理」が 29%、「アニメ」が 24%、「茶道」が 18%と続いている（図 3 参照）。その他、少数の回答（記述式）では、「折り紙」（4.4%）、「陶芸」（2.2%）、「芸者」（2.2%）という回答が存在した。

日本の文化以外で日本のことについて知りたいことを尋ねたところ（Q2-4）、「技術」に関するものがもっとも高く 93%、次いで「教育」が 62%、「価値観」が 44%、「環境」が 38%、「歴史」が 36%と続いている（図 4 参照）。その他、少数の回答（記述式）として「医療」（2.2%）という意見が存在した。

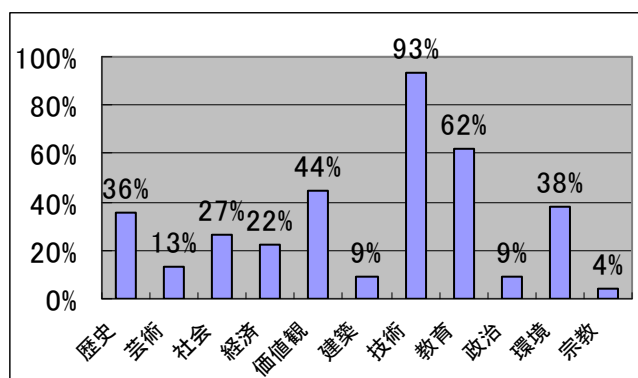


図 4 日本の文化以外の関心

次に日本の ODA についての質問であるが、ボリビアに対して日本が ODA を実施していることを知っているかと尋ねたところ（Q3-1）、「よく知っている」が 16%、「ある程度知っている」が 76%、「あまり知らない」が 9%となっており、「よく知っている」「ある程度知っている」の双方を合わせると 92%が日本の ODA について知っていると回答をした。

そこで「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した者に対して、病院、学校、道路建設など、ODA によるプロジェクトの具体的な内容を知っているかと尋ねたところ（Q3-2）、「とても知っている」が 9%、「ある程度知っている」が 58%、「あまり知らない」が 22%、「全く知らない」が 7%となっており、「とても知っている」「ある程度知っている」の双方を合わせた値は 67%となっている。

さらにこれらの回答者に対して、日本の ODA はボリビアにとって役に立っているかと尋ねたところ（Q3-4）、「とても役立っている」が 29%、「ある程度役立っている」が 40%、「あまり役立っていない」が 27%という回答であった。「とても役立っている」「ある程度役立っている」の双方を合わせた値は 69%となっている。

同じく Q3-1 で「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した者に対して、それらの情報をどこから入手したのかと尋ねたところ（Q3-3）、「テレビ」が 73%、「新聞」が 47%、「ラジオ」が 42%、「うわさ・伝言」が 22%、「雑誌」が 18%、「インターネット」が 16%と続いている（図 5 参照）。その他、少数の回答（記述式）では、「これまで JICA

関係者と一緒に働いたことがある」(6.6%) というものが存在した。

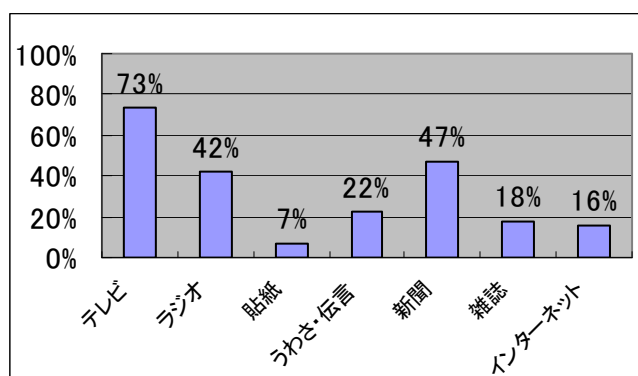


図5 ODA の情報を得た媒体

Q3-1で「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した者に対して、引き続き日本のODAで知っているものがあるかということを探ねたところ(Q3-6)、「機材供与」が78%、「研修生受入」が64%、「協力隊派遣」が47%、「専門家派遣」が44%、「国際緊急援助」が22%と続いた(図6参照)。

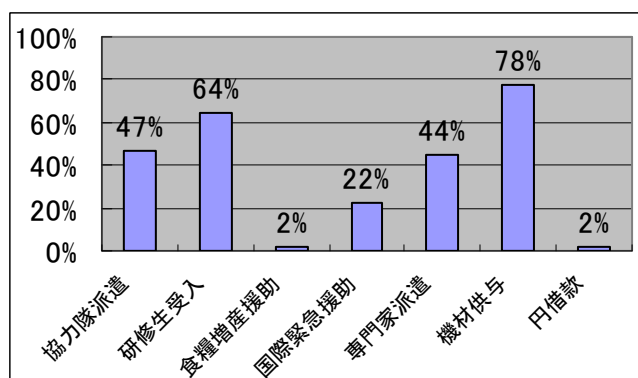


図6 日本のODAで知っているもの

最後にQ3-1で「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した者に対して、ODA以外で日本が積極的に行うべきと思うことは何かと尋ねたところ(Q3-7)、「留学生受入拡大」が62%、「文化交流促進」が44%、「教育支援拡充」と「貿易拡大」が36%、「医療福祉支援拡大」が29%、「海外直接投資拡大」と「環境保全活動拡大」が24%と続いている(図7参照)。

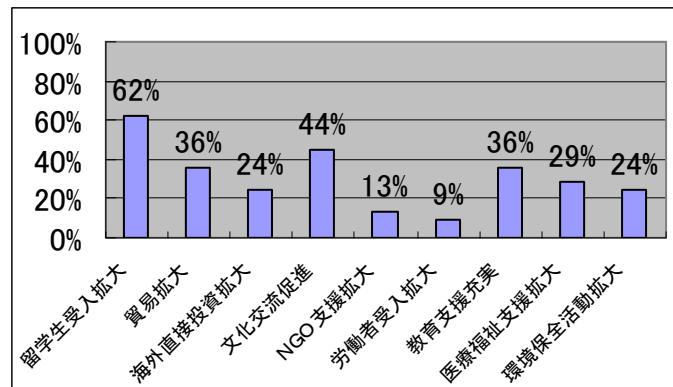


図7 日本が ODA 以外で積極的に行うべきと考えるもの

4 考察

以上のアンケート結果に基づき、つぎにボリビアにおける「日本および日本人に対する印象と好感度」「文化および文化以外の関心」「日本の ODA の周知度」「日本に対する期待」という 4 つの視点から考察を加えていくことにしたい。

・ 日本および日本人に対する印象と好感度

ボリビア人の持つ日本のイメージは、「技術先進国」と考える者が 98% と圧倒的であることが指摘できる。「技術先進国」とイメージする背景には、長年にわたるボリビアに対する ODA による経済協力の影響もあると考えられるが、自動車、自動車部品、電気機器、一般機械、化学製品などを日本から輸入し、これらが広くボリビア国内で普及していることとの関係性の方が生活密着度という観点から強いと考えられる。特に日本製の自動車（含む中古車）に至っては、首都であるラパス市では 7 割から 8 割が日本製であることから¹⁵、技術先進国というイメージを与えていることは想像に容易い。「経済先進国」というイメージを約半数のボリビア人が有しており、「文化先進国」というイメージも約 4 割のボリビア人が持っている。日本が文化的に進んでいると回答した理由には、後述する空手・柔道・剣道などの「武道」や「相撲」といった日本の伝統スポーツが良く知られていることに加え、日本料理店がラパス市に複数軒存在していること、テレビの普及によって日本の番組（特にアニメ）が広く国民の中で見られていること、雑誌や新聞等で日本について紹介されている記事が度々あること、日本大使館の実施する在外公館文化事業の「日本文化祭」などの影響もあるであろう。援助先進国というイメージが少ない理由には近年、対ボリビア援助における日本のシェアが下降傾向にあり、二国間援助におけるプレゼンスを下げていることや、世界銀行や米州開発銀行をはじめとした多国間援助の規模が日本の ODA の規模と比較しても高いということが影響しているものと考えられる¹⁶。

日本人に対するイメージでは「勤勉家」「努力家」「几帳面」という 3 項目がそれぞれ 6

割を超えた。アンデス諸国ではもともと、ペルーで1990年に大統領に当選したアルベルト・フジモリ氏の例に見るように、日系人に対して「勤勉家」「努力家」「几帳面」というイメージを強く持っているといわれている。またボリビアでは本稿の冒頭に述べたように日系人が約14,000名いるとされ、特にサンタクルス県における大豆、米、養鶏といった農業生産を通じた社会貢献は、ボリビア国内でも高い評価を受けている（大豆に至ってはボリビアの主要輸出品にまで成長）。このことからこれらのイメージは、ボリビアやラテンアメリカにおける日系人を通じた影響が非常に大きいと推測される。そのため同国ではこれまでも、パンドの県知事に日系人が当選したり、2006年の大統領選挙で民族革命運動党（MNR）から擁立されたミチアキ・ナガタニ氏が第4位の得票率を得たり、多くの議員や行政リーダーが日系人から誕生したりするなどの現象が生じていると想定される¹⁷。他方で日本人を「野心家」とみる者は少なく、天然資源や鉱物資源を多く保有するボリビアにおいて、日本人が資源獲得を目的としてボリビアにおいて経済活動や援助活動を行っていると捉える者が少ないことを意味している。しかし日本人を「親切」と回答した者は2割程度と少なく、この点において人材交流や文化交流の不足、さらには多くの国や国際機関から援助され続けた歴史を持つ国民意識の表れも指摘することができるであろう。

日本に対する好感度については、9割以上の人々が日本に好感を持っていると回答している。その意味ではこれまでにボリビアは親日的であると意見を述べていた関係者の発言は、今回の調査結果から裏付けることができた。また今後、日本がボリビアにとって重要なパートナー国になりうるかという質問でも、9割近くの人々がなりうるかと回答をしていることから、将来に向けて日本との友好関係を維持し、パートナーとしてさらに発展をしたいというボリビア人の心情が表出したものと捉えることができる。ボリビアでは2006年の大統領選挙で反米主義、反グローバリズム、反新自由主義を唱える原住民系のモラレス大統領が当選しているが、国民の間では日本とアメリカは強固な同盟関係に基づきボリビアを支援しているようには写らず、独立した関係性を保ちながら経済協力を実施していると見ている者が多いと考えられる。

・ 文化および文化以外の関心

日本の文化については、9割以上のボリビア人が、日本の文化について知りたいと思っていることが明らかになった。ボリビア人が日本の文化に対して強い関心を抱く背景には、先にあったように日本を「文化先進国」として捉えている者が多いことも理由の1つであろう。また別の側面からは、日本の文化に対して興味・関心を持ってはいるものの、これに接する機会がボリビアでは少ないことも指摘することができるかもしれない。現在ラパス市では、日本人会が一般のボリビア人に対して日本語教育を行っており、また在ボリビア日本大使館でも広報文化事業を通じて日本文化の紹介をしているが、これが広く一般に知られておらず機会が限定されているということも、逆説的ではあるがこの結果から指摘できるかもしれない。

既に日本のことについて知っているものについては、「武道」や「相撲」というスポーツに関する項目が高い値を示しており、「日本料理」「アニメ」についても関心を持っている人々が多いことが分かった。スポーツ関連項目を知っている人々が多い背景には、今回のアンケート調査の対象のうち女性の占める割合が少なかったことが影響しているものと考えられる。またスポーツ関連項目の値が高かった理由には、テレビ番組などで日本の武道や相撲というスポーツを紹介したり、ラパス市で空手や柔道を教えたりする道場が存在していることも影響していると推測される。他方で従来から文化交流として海外に積極的に紹介をしてきた「日本画」「寺・神社」「華道」「日本人形」「城」「書道」などの値は総じて低いものであった。この背景には日本の伝統的な静を重んじる文化というものよりも、動的で娯楽性の高い文化を嗜好するという傾向が、ボリビア人のなかに潜在的にあるのではないだろうか。

日本の文化以外で関心のあるものについては、「技術」が9割以上を占める結果となった。ボリビア人は日本を技術先進国と見ている者が多いことから当然の結果であると思われるが、逆説的には日本の技術や技能に関する情報、知識というものを伝える機会が限定されている結果だともいえない。「教育」についても高い値を示しているが、その背景にはアンケートの対象者のうち教員の占める割合が高かったこと、日本が技術立国になった背景に教育が強く影響していると考えている者が多いためだと思われる。また「価値観」についても高い値を示している。これは先の質問で日本人に対して「勤勉家」「努力家」「几帳面」というイメージを持っている者が多く、どのような価値観を持って仕事に取り組み、生活を営んでいるのかということに、強い関心が持たれたためではないかと考えられる。

・ 日本の ODA の周知度

日本がボリビアに対して ODA を実施していることについては、9割以上が知っているという回答をしている。その意味では日本の ODA の周知度は少なくともラパス市においては非常に高いといっても過言ではない。知っているもののうち具体的なプロジェクトの内容についても7割近くが知っていることから、日本の ODA と具体的なアウトプットがある程度リンクして認識されているといっても良いであろう。日本が行った ODA について役立っているかという質問については、同じく7割近くが役立っていると回答していることから、日本の ODA は国民から一定の評価を得ているのは間違いない。但し約3割のボリビア人はあまり役立っていないと考えていることから今後、この割合をどのようにして減らすのか、或いはこの割合を増加させないためにはどのような援助手法と広報活動を講じるべきなのかということを検討することが肝要であろう。

日本の ODA に関する情報の入手源については、テレビが圧倒的に多い。次いで新聞、ラジオ、うわさ・伝言、雑誌、インターネットの順になっている。この点からも特に ODA の広報についてはテレビ、新聞、ラジオを中心とした広報活動を引き続き展開するとともに、インターネットや雑誌など多様な媒体を意識した広報活動を展開することも、今後は必要

になってくるものと考えられる。その際には媒体ごとの視聴者・利用者を意識した広報手段を検討することが必要になるであろう。特にボリビアでは現在インターネットの普及が急速に進んでいる¹⁸。インターネットは若者の利用率が高く、好きな時間に利用できるという利点がある。そのため若者向けの現地語による ODA 実施報告や特集をホームページで作成したり、インターネット版の新聞に積極的にアピールしたりすることが有効になると考えられる。

日本の ODA のうち、ボリビア人が知っているものについては、機材供与が約 8 割と最も高い。これはボリビアにおける道路、橋梁、空港、小学校などの建設が周知されているためだと思われる。研修生受入についても 6 割以上の人々が知っているという回答している。これは教育関係者が回答者に多かったことに一因があると考えられるが、毎年 500 名から 600 名の研修生を日本や第三国に受け入れていることから、非常に知名度のある事業だといってもよいであろう。今後はボリビアの日本留学生 OB 協会 (Asociación de Ex Becarios de Bolivia en Japón) のような機関と連携を強め、同組織の活動を側面から支援することで、帰国後のボリビア人の手による日本 (含む文化) および ODA の広報活動を充実させるとも有効な広報手段になるであろう。また専門家派遣と協力隊派遣については、4 割から 5 割弱の人々が知っているという回答している。この結果は、毎年 30 名から 50 名程度の派遣人数であることを勘案すれば、高い知名度であるといっても良いであろう。これら 2 つの事業は日本人とボリビア人の直接的な人材交流を土台とした技術協力であることから、文化交流を促進し親日感情をさらに高めることに貢献する事業であるといえる。他方で日本の円借款 (有償資金協力) については、ほとんどのボリビア人が知らないという回答をしている。ボリビアに対する円借款は、2005 年度までの累計で約 470 億円が提供されており (ODA の約 1/4)、さらに 2003 年と 2005 年には合わせて 600 億円以上が債務免除されていることからしても¹⁹、この知名度はあまりにも低いといわざるをえない。債務免除と円借款との関係性が分かり難いという側面もあるが、円借款は日本の ODA の大きな柱の 1 つであることから、広報については今後より積極的に展開をする必要があるであろう。

・ 日本に対する期待

最後に日本が ODA 以外で行うべきと考えることについては、留学生 (含む研修生) 受入拡大が約 6 割と最も高かった。今回の回答者の多くが教育関係者であったことから、ボリビアの高等教育機関ではこのニーズが非常に高いことが指摘できよう。日本の研修機関における受入制度を継続しつつ、日本の大学や民間研究機関への留学の門戸を拡大することも、ニーズの側面からは一考の価値があるであろう。また文化交流促進についても約 4 割のボリビア人が期待している。先述の在ボリビア日本大使館による文化交流事業の拡大や日本のテレビ番組の放映に加え、協力隊、専門家、日本に研修生として留学した元学生などを通じた文化交流を積極的に支援・促進することも、ニーズに応える 1 つの方法であろう。貿易拡大についても 4 割弱のボリビア人が期待をしている。日本はこれまで非鉄金属

鉱を中心とした原材料品を輸入しており、近年はボリビアの対日輸出も拡大する傾向にある。今後、特惠関税制度を利用して繊維製品や食料品の輸出拡大を模索することも必要かもしれないが、ボリビアの対日輸出は徐々に拡大する傾向にあることを積極的に広報する点も必要かもしれない²⁰。

5 おわりに

以上のように本稿では、ボリビアの人々が日本（人）に抱く対日感情や文化を含めた日本への関心、そして日本の ODA に対する認知度について、アンケート調査を実施して、分析と考察を加えた。今回の調査結果から、ボリビア人は日本および日本人に対して非常に親日的な感情を有しており、また将来に向けても相互パートナーの関係性を土台にして発展を強く望んでいることが数量的に明らかになった。日本がこれまでに実施してきた ODA についても円借款については認知度が低いという問題点はあるものの、全体的としては広く国民に知れ渡っていることも明らかになった。

ボリビア人は日本のことを技術的先進国であると思っている者が多いために、今後は技術に関する知識や技能さらには情報というものの普及を、文化や経済というものと連関させて展開することが効果的であろう。文化的な側面からは、筆者がボリビアに滞在していた期間に多くのボリビア人から教えてもらった元日本国大使が紹介をした NHK のテレビ番組「プロジェクト X」のようなテレビ放送の拡大や、文化交流事業を通じて組織文化を重視するトヨタ生産方式を紹介したり、日本の文化と社会開発の歴史を知ってもらうようなセミナーを定期的を開催することも有効かもしれない。また経済的な側面から、ODA によってもたらされた技術を用いて対外貿易拡大に貢献している事例を広報したり、日本が技術立国になるうえでの経済の役割というものをセミナーを通じて知ってもらうことも有効であろう。この点については援助関係者の知恵を期待したいと思う。

またボリビアでは情報媒体の多様化が進んでおり、これまでのテレビ、新聞、ラジオといったものだけでなく、インターネットなどを用いて ODA の広報を行えるように体制を整えることが必要であろう。そのためにはマーケティングの能力を持った担当者を配置し、広報担当部署を援助関係者間で共有することも有効であると考えられる。

このような工夫を行うことでボリビアにおける日本の経済協力がさらに認知され、相互関係はより強固なものとなることであろう。これが日本人や ODA の対外的評価を上げることにも貢献し、強いては ODA 大綱に謳われているように日本そのものの国益にも繋がると考える。

【付記】

本研究はサンアンドレス・ボリビア国立大学 (UMSA) 科学技術学部の協力のもとに実施されたものである。科学技術学部長の Gido Castro 氏、産業技術学科長の Victor Herrera 氏、コーディネーター等において協力を頂いた Fabio Huanca 氏に記してお礼を申し上げたい。

【参考文献】

- 綾部誠 (2002) 「ボリビアでの技術協力に参加して」『機械と工具』第 64 巻第 4 号-7 号、工業調査会。
- 国連開発計画編、横田洋三他監修 (2007) 『人間開発報告書 2006』古今書院。
- 外務省国際協力局編 (2008) 『政府開発援助 (ODA) 国別データブック』外務省国際協力局。
- 国本伊代 (2005) 『改訂版 ラテンアメリカ研究への招待』新評論。
- 国際協力機構 (2006) 『国際協力機構年報 2006』国際協力出版会。
- 国際協力機構 (2007) 『国際協力機構年報 2007』国際協力出版会。
- 国際協力銀行開発金融研究所 (2007) 『国際協力便覧 2007』国際協力銀行。
- 世界銀行編、田村勝省訳 (2007) 『世界開発報告 2007』一灯舎。
- 総務省行政監察局編 (1989) 『ODA の現状と課題 II』大蔵省印刷局。
- 福本悦雄監修 (1993) 『ボリヴィア』海外職業訓練協会。
- 真鍋周三 (2006) 『ボリビアを知るための 68 章』明石書店。
- 毛利良一 (2007) 「中南米左派政権の群生と経済政策の持続可能性-ボリビア先住民左派政権を中心に-」『日本福祉大学経済論集』第 35 巻、日本福祉大学経済学会 日本福祉大学福祉社会開発研究所。
- 柳原透 (2004) 『ボリビア国別援助研究会報告書』、国際協力機構。
- Carlos Gispert 監修 "ENCICLOPEDIA DE BOLIVIA" OCEANO。
- Rafael Archondo (2004) "Interculturalismo y Globalización" PNUD。

【付録】

Las encuestas sobre el "Japón"

Por favor conteste las siguientes preguntas. Seleccione la opción que vea conveniente y cuando seleccione "Otro" escriba entre los paréntesis () lo que cree conveniente. En las preguntas del 1) al 4) escriba directamente en los espacios en blanco.

1. EL ATRIBUTO BÁSICO

1) Seleccione su sexo (Seleccione una sola opción) .

	Hombre		Mujer
--	--------	--	-------

2) Seleccione su edad (Seleccione una sola opción) .

	16 ~ 18		19 ~ 21
	22 ~ 24		25 ~ 27
	28 ~ 30		Mas de 31

3) Cual es su trabajo principal (Seleccione una sola opción) .

	Estudiante		Oficionista del escuela
	Profesor		Empleado

	Negocio propio		Otros ()
--	----------------	--	-----------

4) Si pertenece a algún instituto o universidad escriba el nombre, la facultad y la carrera a la cual pertenece (Escriba directamente) .

Nombre	
Facultad	
Carrera	

2. SIMPATÍA CON JAPÓN

1) ¿ Qué imagen tiene Usted sobre Japón ? (Puede seleccionar varias opciones) .

	País avanzado en economía		País avanzado en bienestar
	País avanzado en tecnología		País avanzado en turismo
	País avanzado de donación		País avanzado en cultura
	País avanzado en medio ambiente		Otros ()

2) ¿ Usted quiere saber más sobre la cultura japonesa ? (Seleccione una sola opción) .

	Quiero mucho		Quiero
	No quiero mucho		Nada

3) ¿ Usted conoce algunas culturas de Japón ? (Puede seleccionar varias opciones) .

	Cocina japonesa		Artes marciales como Karate, Judo, Kendo
	Pintura japonesa		Muñecas japonesa
	Templos, Sintoísta		Castillo
	Sumo		Caligrafía japonesa
	Arreglo de flores		Ceremonia del té
	Animación		Otros. ()

4) ¿ Aparte de la cultura japonesa qué mas quisiera saber? (Puede seleccionar varias opciones) .

	Historia		Tecnología
	Arte		Educación
	Sociedad		Política
	Economía		Medio ambiente
	Valores de japonés		Religión
	Arquitectura		Otros. ()

5) ¿ Que imagen tiene Usted de los japoneses ? (Puede seleccionar varias opciones) .

	Serio		Sacrificado
	Inteligente		Ambicioso
	Trabajador		Simpático
	Puntual		Otros. ()

6) ¿Usted tiene simpatía al Japón ? (Seleccione una sola opción) .

	Tengo mucho simpatía		Tengo simpatía
	No tengo mucha simpatía		No tengo ninguna simpatía

- 7) ¿ Usted piensa que Japón será un país cooperativo importante en el futuro ?
(Seleccione una sola opción) .

	Pienso mucho		Pienso
	No pienso mucho		Ninguno

3. RECONOCIMIENTOS DE LA DONACIÓN JAPONESA

- 1) ¿ Usted conoce que el gobierno del Japón hizo donaciones en este país ?
(Seleccione una sola opción) .

	Conozco muy bien		Conozco
	No conozco mucho		Nunca las he conocido

- 2) De la pregunta de 1) " Conozco muy bien" o " Conozco" ¿Usted conoce los detalles del proyecto como construcción del hospital ,camino, escuela ?
(Seleccione una sola opción) .

	Conozco muy bien		Conozco
	No conozco mucho		Nunca los conozco

- 3) De la pregunta de 1) " Conozco muy bien" o " Conozco" ¿ Mediante que medio de información usted se ha informado (Puede seleccionar varias opciones) .

	Televisión		Periódico
	Radio		Revista
	Anuncio		Internet
	Comentario		Otros. ()

- 4) De la pregunta de 1) " Conozco muy bien" o " Conozco" ¿ Usted piense que esa donación es útil para el desarrollo de su país ? (Seleccione una sola opción) .

	Utilizado muy bien		Utilizado
	No utilizado bien		Nunca se ha utilizado

- 5) En la pregunta de 1) " Conozco muy bien" o " Conozco" ¿ Como piensa que en ese proyecto trabajan los expertos japoneses ? (Se puede seleccionar varias opciones) .

	Aceptable por el país que se ha cooperado		Aceptable por el país que tiene tecnología
	Aceptable hasta transferencia de tecnología		Aceptable hasta que termine el proyecto
	No aceptable desde el comienzo del proyecto		Otros. ()

- 6) Usted conoce algo de la donación japonesa (Se puede seleccionar varias opciones).

	Envío de voluntarios		Envío de expertos japoneses
	Profesionales Becados al Japón		Implementación de equipos
	Donación para aumentar		Préstamo con contratos

	comida		
	Ayuda urgente para desastre		Otros. ()

7) Como Usted piensa que ¿Aparte de la donación que cosa mas debe hacer Japón?
(Se puede seleccionar varias opciones) .

	Expansión de la acepto de las becas		Expansión de los trabajadores extranjeros
	Expansión del comercio		Expansión de ayuda a favor educación
	Expansión de inversión extranjera		Expansión médica y bienestar
	Activación de intercambio cultural		Expansión del acto contra medio ambiente
	Expansión de ayuda a ONG		Otros. ()

4. DESCRIPCIÓN LIBRE

Por favor escriba algo sobre su deseo o solicitud de donación japonesa. Si Usted tiene alguna otra impresión sobre Japón escriba abajo libremente.

Muchas gracias por su cooperación.

■著者プロフィール

綾部誠 (AYABE Makoto) サンアンドレス・ポリビア国立大学 (UMSA) 科学技術学部客員教授 (技術移転論、国際開発論、地域社会学)

京都府京都市生まれ。三菱自動車工業株式会社、青年海外協力隊（工作機械）を経て、1998年に日本福祉大学経済学部に入學。2002年に中部大学大学院国際関係学研究科博士前期課程修了、2007年に日本福祉大学大学院情報・経営開発研究科博士後期課程修了（Ph.D 経営開発学）。2002年から2009年まで日本福祉大学通信教育部医療・福祉マネジメント学科に学習指導講師として在籍。2006年からはサンアンドレス大学で技術移転論の講義を担当し、2008年からは同大学の客員教授として博士後期課程の設置準備などにも携わる。

これまでの研究は、大きく分けて、技術移転論と適正技術論、国際開発論と国際協力論、開発人類学と地域社会学の3領域にわたって、研究を展開してきた。これらの研究では、特に地域社会・組織・環境などの多様性というものを社会学の観点から分析し、それぞれに適した社会・経済開発の方法や適正技術の在り方について研究を深めてきた。また日本の産業社会史から開発の方法論を抽出して検証し、研究成果を開発途上国で普及する活動にも長年、取り組んできた。主な近著は次のとおり。

- ・ 「国際技術移転における技術受容サイドの捉え方に関する考察」『経済論集』第32号、日本福祉大学経済学会、日本福祉大学福祉社会開発研究所、pp.201-213、2006。
- ・ 「日本の政府開発援助（ODA）」雨森孝悦編『開発協力』、日本福祉大学、pp.24-40、2007。
- ・ 『技術受容サイドの多様性に則した技術選択に関する研究』日本福祉大学大学院情報・経営開発研

究科、294p、2007。

- ・ 「技術受容サイドの多様性の枠組みに則した適合技術の選択」『国際人間学フォーラム』第3号、中部大学大学院国際人間学研究科、pp.5-28、2007。
- ・ 「識字率の高低と生活資源の結合／分解の枠組から導出される意思決定の傾向」『貿易風』第3号、中部大学国際関係学部、pp.218-234、2008。
- ・ 「ネパールの少数民族における高齢者福祉の現状と課題」『経済論集』第37号、日本福祉大学経済学会、日本福祉大学福祉社会開発研究所、pp.99-113、2008。
- ・ 「近代以降の日本の産業組織を取り巻くマクロ環境とミクロ環境の類型」『国際人間学フォーラム』第4号、中部大学大学院国際人間学研究科、pp.23-37、2008。

これからの研究は、南アジアのネパールと、ラテンアメリカのボリビアを対象国として、内陸国における経済・社会・技術・文化などの共通点と相違について、比較社会学の観点から研究を展開したい。またこれまでの3領域の研究を融合して、既存の国際協力の方法論を再構築したいと考えている。

共生について：人間（福祉）・自然（環境）・物財（経済）という3つの再生産活動を、バランスよく行うことが「共生」ではないかと考えています。そのためには互いの差異や特徴を認め合い、これを調整する社会のシステムが必要だと思います。このシステムをうまく機能させるために、我々は日本を含めた世界の歴史や多文化の観点から、多くのことを学ぶ必要があるのではないのでしょうか。



¹ 世界銀行編、田村勝省訳（2007）『世界開発報告 2007』一灯舎、pp. 383-386。

² 国連開発計画編、横田洋三他監修（2007）『人間開発報告書 2006』古今書院、pp. 334-336。

³ 世界銀行編（2007）、前掲書、p. 392。

⁴ 国連開発計画編（2007）、前掲書、p. 395。

⁵ 戦前期の移民の子孫を入れれば日系人は3万人から6万人になると見られている。ちなみに戦前に移住した日系人に対しては、日本政府およびボリビア政府から公的な支援を受けることはなかった。柳原透（2004）『ボリビア国別援助研究会報告書』、国際協力機構、p. 57。

⁶ 外務省経済協力局は、ボリビアを資源外交上（特に鉱山開発）の有力なパートナーになることを期待していると表明している。外務省国際協力局編（2008）前掲書、p. 920。

⁷ 外務省国際協力局編（2008）前掲書、pp. 920-921。

⁸ 円借款の累計については、債務繰延と債務免除を除いた額である。外務省国際協力局編（2008）、前掲書、p. 922。

⁹ 2005年はアメリカ、スペイン、ドイツ、オランダに次いで第5位のODA供与国となっている。外務省国際協力局編（2008）、前掲書、p. 923。

¹⁰ 国際協力機構（2006）『国際協力機構年報 2006』国際協力出版会、p. 61 および国際協力機構（2007）『国際協力機構年報 2007』国際協力出版会、p. 60。

¹¹ 国際協力銀行開発金融研究所（2007）『国際協力便覧 2007』国際協力銀行、p. 464。

¹² 「ボリビア・ビジョン・サイト」では、1）現地ベース政策協議の実施、2）国別援助計画の策定・見直しのプロセスへの関与、3）現地援助コミュニティとの連携、4）当該国の開発計

画・マクロ経済情勢等の分析・研究、5) 過去の経済協力に関する評価、6) 積極的な ODA 広報の実施、などが謳われている。在ボリビア日本大使館

(<http://www.bo.emb-japan.go.jp/jp/coop/vision/vision.htm>)。なお開発途上国における広報活動の重要性については古くから指摘されている。その1つが総務省行政監察局編(1989)『ODAの現状と課題Ⅱ』大蔵省印刷局、pp. 203-205にある「広報活動の充実に関する勧告」にみられる。

¹³ ボリビアが親日的であるということについては、元在ボリビア日本大使の白川光徳氏の発言(<http://www.fasid.or.jp/oda/pdf/report1.pdf>)や、日本・ボリビア議員連盟会長の自見庄三郎氏の発言(<http://www.jimisun.com/list/163.html>)からも理解ができる。また JICA も生活基礎分野評価において、プロジェクトが親日家を増やしていることを強調している(<http://www.mofa.go.jp>)。しかし客観的な数値として親日度を示したものではない。

¹⁴ 柳原透(2004)前掲書、pp. 26-27。

¹⁵ ラパス市では7割から8割が日本製の車であるとされる。福本悦雄監修(1993)『ボリヴィア』海外職業訓練協会、pp. 44-45。現在は韓国製の自動車も増えているが、日本車が非常に多いことに違いはない。

¹⁶ 外務省国際協力局編(2008)前掲書、p. 923。

¹⁷ ボリビアの日系人の歴史については、柳原透(2004)、前掲書、pp. 57-58に詳しい。

¹⁸ ボリビアにおけるインターネット利用契約者の比率は、全人口比で3.22%(2002年)とまだ低い。しかしインターネットカフェなどでインターネットを利用する若者が、近年は急増している。ボリビアのインターネット事情に関する詳細については、Rafael Archondo(2004)『*Interculturalismo y Globalización*』PNUD、pp. 169-175を参照。

¹⁹ 外務省国際協力局編(2008)前掲書、p. 922。

²⁰ 近年のボリビアと日本の輸出入の状況については日本貿易振興機構(JETRO)のホームページを参照(<http://www.jetro.go.jp/>)。